

# エコアクション21 環境経営レポート



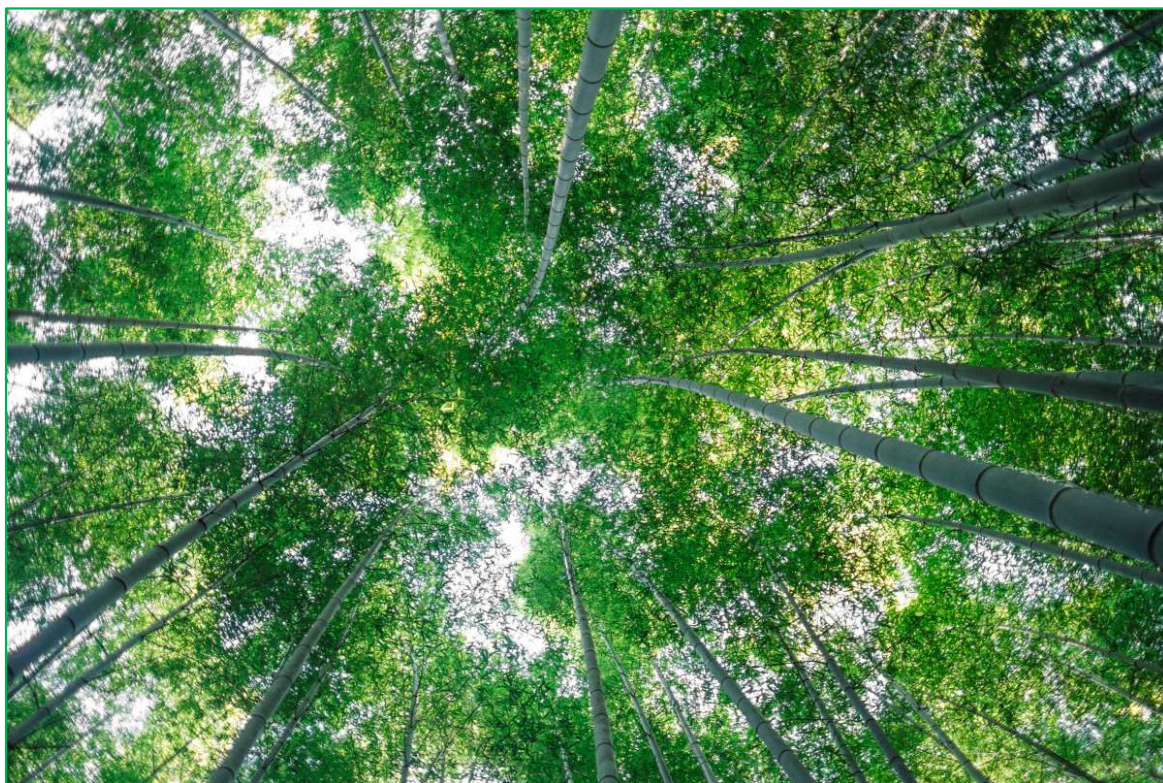
®環境省

エコアクション21

認証・登録番号 0001057

## 2024年度

活動期間：2024年4月～2025年3月



発行日 2025年7月20日



北陸電通輸送株式会社

## － 目次 －

1. 事業活動の概要	-----	P3
2. 環境経営方針	-----	P4
3. エコアクション21推進体制	-----	P5
4. 環境経営計画の基本的取組計画	-----	P6
5. 過去3年間の環境実績	-----	P7
6. 今後3年間の環境目標	-----	P8
7. 環境活動の取組結果と評価	-----	P9
8. 問題点の是正処置及び予防処置の結果	-----	P10
9. 次年度の取組み	-----	P11
10. 環境関連法規の遵守状況	-----	P12
11. 廃棄物の収集運搬	-----	P13
12. 代表者による全体評価と見直し	-----	P14
13. 活動紹介	-----	P15



# 1. 事業活動の概要

## (1) 事業者名及び代表者

北陸電通輸送株式会社  
代表取締役社長 滝 裕孝

## (2) 所在地

本社 〒920-3132 石川県金沢市法光寺町木2番地  
金沢営業所 〒920-0814 石川県金沢市鳴和町1-2

## (3) 環境保全関係の担当者連絡先

担当者 今井 政彦  
連絡先 Tel 076-258-1133 FAX 076-258-1134

## (4) 事業の規模

法人設立年月 昭和39年7月  
資本金 1,800万円  
従業員 21名  
オフィス延べ床面積 70.55㎡  
売上高

(万円)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	12,576	12,705	14,499	16,376

## (5) 事業内容

一般貨物自動車運送、産業廃棄物収集運搬、特別管理産業廃棄物収集運搬  
特定信書便、荷役、引越、古物商

## (6) 認証登録範囲 (全組織、全活動)

貨物自動車による運送業、産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業

## (7) 施設等の状況

運搬車両 (12台)  
11t車4台、13t車1台、8t車2台、6t車1台、4t車1台、  
3t車3台

## (8) レポートの対象期間及び発行日

事業年度 2024年4月1日～2025年3月31日  
発行日 2025年7月20日



## 2. 環境経営方針



環境省  
エコアクション21  
認証・登録番号 0001057

### 環境基本理念

当社は、常に地球環境を意識し、運送の事業活動が環境に与える影響を認識し、事業活動における社会貢献とともに地球環境の保全に貢献する企業を目指し継続的な取組みを展開します。

### 環境方針

1. 運送で使用する軽油等の効率的使用に努め、二酸化炭素排出量の削減を行います。
2. 運送車両から排出される排気ガスによる大気汚染を低減します。
3. 環境目標を定め、その運用を行うとともに定期的な見直しを実施し、継続的な改善を図ります。
4. 環境関連法規及び条例を遵守します。
5. 環境方針は、会社の仕事に従事する全従業員に周知するとともに環境に対する教育を計画的に実施し意識の向上を図ります。

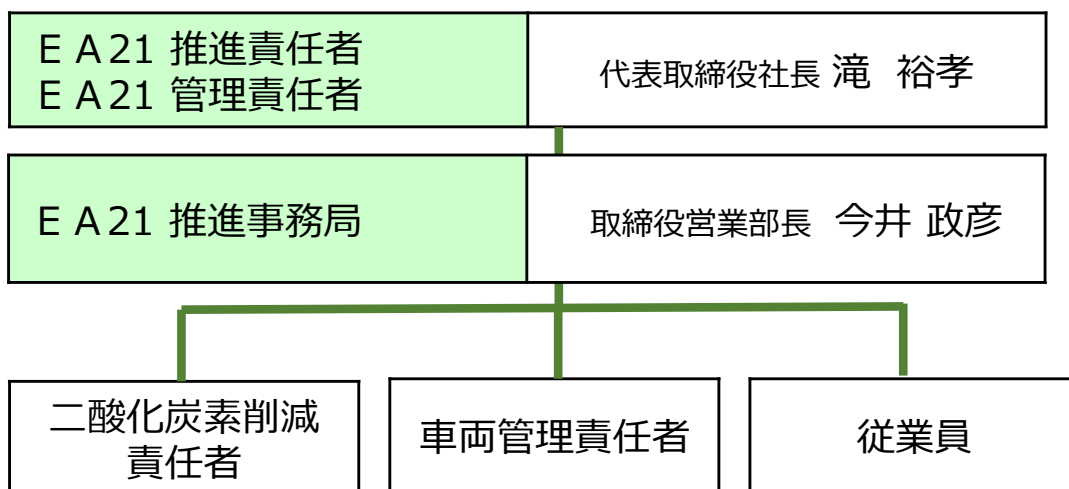


発行 2006年10月11日  
改定 2011年 6月 3日  
改定 2020年 7月 1日  
改定 2021年 7月 1日  
改定 2025年 7月 1日

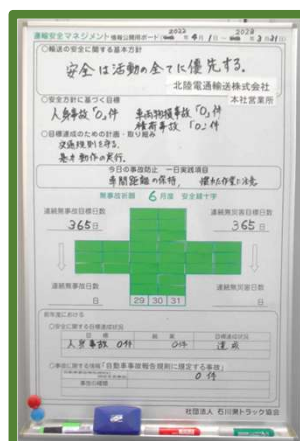
北陸電通輸送株式会社  
代表取締役社長 滝 裕孝

### 3. エコアクション21推進体制

当社のE A 2 1（環境活動評価プログラム）を運用するための組織は、次のとおりです。



役割	
EA21推進責任者	① 環境方針の作成 ② 方針、目標、計画の見直し ③ 人、物、金の提供
EA21管理責任者	① EA21の取組みの実践管理 ② 目標計画の進捗管理 ③ 法律の遵守、評価
二酸化炭素削減責任者	① 軽油等の計画／実績管理 ② 具体的削減への取組
車両管理責任者	① 定期整備管理 ② タイヤ購入の管理、タイヤローテーションの実施
EA21推進事務局	① EA21推進の事務管理
全従業員	① 環境方針の理解と環境への取組み実践 ② 自主的、積極的に環境活動へ参加



## 4. 環境経営計画の基本的取組計画

環境目標		具体的取組内容
地球の温暖化と環境汚染に対する提言の取組み	1.貨物自動車の二酸化炭素排出量削減	軽油・ガソリンの前年比1%削減 ①使用量のチェック ②エコドライブの実践 ③数値の把握 (総量、CO <sub>2</sub> 原単位による) 
	2.電力使用量削減	前年比1%削減 ①エアコン節電管理 (フィルター清掃、設定温度管理 夏期 28℃、冬期20℃) ②不用照明の消灯 ③使用量の把握 (kwh) 
	3.排気ガス削減	車両更改時の低ガス車両 (27年度燃費基準達成車)導入 ①排出ガスを抑制した新車両の導入を図る。 ②数値の把握 (CO <sub>2</sub> 原単位による) ③車両の自主点検・整備の徹底 
	4.資源の削減 (タイヤ購入量削減)	過去3年間の平均値以下 ①エコドライブの実践 ②適度なタイヤローテーションの実施 ③数値の把握 (kg) 
	5.水使用量削減	前年度実績65m <sup>3</sup> 以下 ①洗車時の節水 (洗車機の導入) ②数値の把握 (m <sup>3</sup> ) 
	6.環境に配慮した事務用品購入	購入率2%向上 ①エコ商品の積極的購入  
	7.優良産業廃棄物処理事業者資格取得の推進	直近3期の収支平均が「0」以上 【収支改善を図る】 ①新規受注の拡大を目指す ②運送効率の更なる向上 ③適性運賃に向けた荷主交渉  
	8.交通事故、作業事故撲滅 (新規目標設定)	年間を通じ交通事故、作業事故「0」 ①ミーティング等で事故事例の共有、類似事故発生防止を意識づけ ②SDラーコンテスト参加  
	9.SDGs推進 (新規目標設定)	事業活動を通じたSDGsへの貢献 ①自社の事業活動とSDGsの取組みの関連付け ②SDGsの取組をミーティング等で周知 

## 5. 過去3年間の環境実績

項目	年度		単位	2024年度	2022年度	2023年度	2024年度
				目標	実績	実績	実績
二酸化炭素 排出量削減	事業用自動車(軽油・ガソリン) のCO <sub>2</sub> 排出量		kg-CO <sub>2</sub>	390,998	306,571	342,981	360,709
	燃費	1 <sup>※</sup> km走行時CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /km	0.598	0.596	0.604	0.603
	電力 使用量	電力量によるCO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	3,416	3,287	3,451	3,406
	CO <sub>2</sub> 総量		kg-CO <sub>2</sub>	394,414	309,858	346,432	364,115
排気ガス削減	Nox 排出量	対象車両のNO <sub>x</sub> 排出量	g-NO <sub>x</sub>	359,442	341,607	363,073	395,351
	低ガス車両総導入数		台		15	15	15
	車両総数(運搬車両)		台	車両更改 時に導入	16(12)	16(12)	17(13)
	低ガス車両導入率		%		93.8%	93.8%	94.0%
タイヤ購入量削減	タイヤ購入量		kg	2,731kg (過去3年 平均値)	3,152kg	3,488kg	3,173kg
水使用量削減	上下水道		m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>
エコ商品購入推進	エコ商品購入率		%	100%	100%	98%	74%
優良産業廃棄物 処理事業者認定	新規(更新)許可取得数		件	継続取組	0	0	0
加害事故、 作業事故撲滅	事故件数		件	0	-		0
SDGs推進	SDGs貢献		-	継続取組	-		継続取組

### 【取り組み内容】

- CO<sub>2</sub>排出量は軽油が全体の95.0%、ガソリン4.0%、電力0.9%であり貨物自動車の燃費を高める事を最大の目標としエコドライブの推進、走行距離に応じたエンジンオイルの交換等に取り組みました。
- 電力使用量の削減として、エアコンの適正温度の設定やフィルターの清掃、不要証明の消灯などに継続的取り組みました。  
\* 電力使用量の二酸化炭素排出係数は0.627kg-CO<sub>2</sub>/kWhを適用しました。
- 車両更改時には低ガス車両導入を念頭に推進しています。
- 適正なタイヤの管理を行うため、タイヤの点検専門業者に運営を委託しています。
- 洗車時の節水のため省エネ洗車機を導入しています。
- 事務消耗品等を購入する際は、エコ対象商品を優先して購入していた。工具・機械類を購入対象に加えたため、エコ商品購入率が下がった。
- 優良産業廃棄物処理事業者認定要件である3期の収支平均「0」以上及び、適正な情報公開を目指しています。

## 6. 今後3年間の環境経営目標

項目	年度		単位	2023年度	2025年	2026年	2027年
				基準値	目標	目標	目標
CO <sub>2</sub> 排出量削減	貨物自動車(軽油・ガソリン)によるCO <sub>2</sub> 排出量		kg-CO <sub>2</sub>	342,981	387,088	383,217	367,856
	燃費	1 <sup>※</sup> km走行時CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /km	0.604	0.592	0.586	0.557
	電力使用量	電力量によるCO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	3,451	3,381	3,357	3,189
	CO <sub>2</sub> 総量		kg-CO <sub>2</sub>	346,432	390,469	386,574	371,245
排気ガス削減	Nox排出量	全車両のNOx排出量	g-NOx	363,073	355,847	352,289	334,675
	低ガス車両総導入数		台	15	低ガス車両(27年度燃費基準達成車)は、車両更改時に導入する。		
	車両総数(運搬車両)		台	16(12)			
	低ガス車両導入率		%	93.8%			
タイヤ購入量削減	タイヤ購入量(※過去3年間の平均値)		kg	3,488kg	保安上の観点から定期的な更改が必要なため、直近3年間の実績の平均値を目標値とする。		
水使用量削減	上下水道		m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>	65m <sup>3</sup>
エコ商品購入推進	エコ商品購入率		%	98%	76%	78%	80%
優良産廃事業者認定	事業許可数	対象許可総数	件	9	9	9	9
		現行許可数	件	0	0	1	1
		更新許可対象数	年度別	1	1	3	2
		新規許可取得数	更新結果	0	1	0	2
加害事故、作業事故撲滅	事故件数		件	0	0	0	0
SDGs推進	SDGs貢献		-	ミーティング等で事業活動とSDGs関連を意識づけ			

- CO<sub>2</sub>排出量削減目標は2022年度より産業廃棄物収集運搬車両(軽油)及び、自家用車両(ガソリン)による全車両のCO<sub>2</sub>削減を目標として数値を把握しています。
- 目標値は、2025年度と2026年度は前回(2023年度版)策定のとおり。2027年度については、2026年の目標を基準に削減率(5%)を適用しました。
- 低ガス車両(27年度燃費基準達成車)は、早期更改に向けて積極的に導入していく。
- エコ商品購入率は、エコ対象商品の優先購入を行い、2024年実績の購入率を2%の向上させる。
- 優良産廃処理事業者認定は、経営指標と連動する認定要件を満たすよう継続して取り組む。
- 加害事故、作業事故は「無事故」を目標として安全運転、安全作業に取り組む。

## 7. 環境経営計画の取組結果と評価

(○：達成 △：ほぼ達成 ×：未達成)

環境目標	項目	取組状況	評価
CO <sub>2</sub> 排出量削減	車両の燃料(軽油・ガソリン)を削減する。	①保有車両(軽油・ガソリン)の総走行距離は597,986kmであり対前年比30,607km(+5.39%)となった。CO <sub>2</sub> 排出量の対前年比は+17,728kg-CO <sub>2</sub> (+5.17%)となった。能登半島地震に加えて豪雨災害の影響で、災害復旧資材の運搬が増えたためと思われる。 ②1kmあたりのCO <sub>2</sub> 排出量については対前年比▲0.001kg-CO <sub>2</sub> /kmと微減した。燃費向上を継続して推進していく。	×  ○
	事務室の消費電力量を削減する。	電力使用量による排出量は、対前年比▲1,040kg-CO <sub>2</sub> (▲30.1%)と、目標としていた3,416kg-CO <sub>2</sub> を達成できた。引き続き、エアコンの適正温度の設定やフィルターの清掃、不要証明の消灯などの自社で行える取り組みを推進していく。	○
廃棄物排出量削減	タイヤ購入量を抑制する。	対前年比▲315kg(▲9.0%)で、タイヤ交換時期を管理し、適度な対応ができた。	○
水使用量削減	上水道の節水	洗車時の節水意識の定着を推進しており、変動はない。	○
窒素酸化物削減	ディーゼル車の排出ガスを削減する。	①対前年比について+8.9%となったが、能登地震に加え、豪雨災害の災害復旧物資の運搬で走行距離が増したことによる結果と思われる。	△
		②排出ガス抑制車両の導入については、今後は車両の老朽化等を考慮して検討する	○
環境配慮商品購入推進	エコ商品購入	エコ対象商品の商品を優先的に購入していく	×

環境経営計画は全従業員で取り組みます。

## 8.問題点の是正処置及び予防処置の結果

	ガイドライン要求事項	現状の取組内容等	是正及び予防処置・改善等
1	対象組織・活動の明確化	対象組織は会社全体であり、全員で取り組んでいる。	
2	環境経営方針の策定	前年と同様の環境経営方針で取り組んでいる。	社内に掲示して意識づけを図っている。
3	負荷・取組状況把握及び評価	負荷項目は毎月パソコンに記録し、定期的に自己負荷チェックにより確認を行っている。	
4	環境関連法規等のとりまとめ	弊社が関連する法を一覧表にまとめて遵守状況や改正がないか確認しており、法改正などについては日常から情報収集に努めている。	
5	環境経営目標及び計画策定	過去の実績に応じて、中期的な観点から2022年度の目標を設定し実績を把握した。2023年度も実情に応じて目標を策定する。	
6	実施体制の構築	社長を推進責任者とし事務局を部門責任者が担う体制を構築している。	全従業員に役割を持たせ意識の低下を防止する。
7	教育・訓練の実施	エコアクション21に取り組んでいること、朝礼時や全体講習会等を活用して確認を行っている。	
8	環境コミュニケーションの実施	外部からの苦情などは、必ず代表者に報告し対応策を協議して解決する仕組みは構築されている。	
9	現場作業時の実施・運用	現場においては、車両点検表に基づき、日常点検を行い、記録・整備を行っている。	環境に配慮しながらも、安全・安心を第一に現場作業を行っていく。
10	緊急事態の準備・対応	緊急事態に対する予防措置として、朝礼時や全体講習会等を活用して措置の確認を行っている。	緊急事態に対応するための訓練の実施を計画していく。
11	文書及び記録の作成・管理	パソコン及び書面により文書及び記録を保管している。	
12	取組状況の確認・評価	個々の項目について、定期的に取り組状況を確認し評価を行い、環境活動レポートに記載する。運搬車両の燃費をしっかりと把握しエコドライブを推進する。	車両更改時に合わせ低燃費車両に入れ替えを行っていく。
13	代表者による全体の評価と見直し	環境管理責任者・事務局からの報告を受け、代表者として全体を評価し、見直しを指示している。	

## 9. 次年度の取組み

環境目標	項目	具体的取組み
CO <sub>2</sub> 排出量削減	車両の燃料(軽油・ガソリン)削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>①エコドライブの実践 (不要なアイドリングの抑制)</li> <li>②車両別1km燃料の走行距離、月別・車両別の燃費・走行距離の周知しエコ運転意識を向上</li> <li>③オイル&amp;燃費管理表により周知し適切なエンジンオイル交換と燃費改善意識を徹底</li> </ul>
	事務室の消費電力量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>①エアコンフィルター定期清掃実施</li> <li>②エアコン設定温度の適正化</li> <li>③不用照明の消灯徹底</li> <li>④月々の電力使用量の把握</li> </ul>
タイヤ購入量削減	タイヤ購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>①エコドライブの実践 (急発進、急ブレーキの抑制)</li> <li>②適切なタイヤローテーションの実施 (タイヤ専門店による管理徹底)</li> </ul>
水使用量削減	上水道節水	<ul style="list-style-type: none"> <li>①節水洗車機の活用洗車で洗車時の節水</li> <li>②ミーティング等で定期的に節水の呼びかけ</li> </ul>
窒素酸化物削減	ディーゼル車排出ガス削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>①排出ガスを抑制した新車両の導入</li> <li>②車両別 1ℓ 燃料の走行距離による窒素酸化物排出量の把握</li> <li>③車両の自主点検・整備の実施</li> </ul>
環境配慮商品購入推進	エコ商品購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コピー用紙裏面利用</li> <li>②エコ商品購入の徹底</li> </ul>
優良産廃処理事業 者認定取得、維持	優良産廃処理事業者認定 取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>①産廃情報ネット適時更新</li> <li>②電子マニフェストの利用</li> </ul>
加害事故、 作業事故撲滅	安全意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日の点呼時に安全運転を徹底</li> <li>②ミーティング等で事象事例を周知</li> </ul>
SDGs推進	SDGs意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ミーティング等で事業活動とSDGs関連を意識づけ</li> </ul>

## 10. 環境関連法規の遵守状況

### (1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法律	内容	条文	評価
廃棄物の処理清掃に関する法律（廃掃法）	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の管理・保管（5年保存）	12条の3-9項 規則8条の30	遵守
	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の管理台帳作成・保管（5年保存）	規則10条の8	遵守
	収集運搬の許可（5年又は7年）	14条の1-2項 令6条の9、6条の13	遵守
	収集運搬の許可内容変更	14条の2	遵守
	収集運搬車両の許可番号等の表示、マニフェスト、及び許可証の携行	令6条の1項 令6条の5の第1項	遵守
	収集運搬契約（契約内容、添付書面）	全国産業廃棄物連合会委託契約書の手引き（平成25年12月版）	遵守
道路運送車両法	自動車の登録	4条	遵守
	自動車の保安基準	46条	遵守
	自動車の点検・整備・検査	47条、48条、49条	遵守
	整備管理者選任	50条	遵守
使用済み自動車の再資源化等に関する法律	適正引取事業者への引渡	5条	遵守
金沢市廃棄物の減量化及び適正処理等に関する条例	廃棄物減量化、適正処理 再利用可能物の分別	4条 16条	遵守

### (2) 違反・訴訟等の有無

環境関連法規等の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。  
また、過去に違反や関係機関からの指摘や利害関係者からの訴訟もありませんでした。

# 11. 廃棄物の収集運搬

## (1) 許可の状況

行政名	種類	許可番号	許可品目														許可の有効年月日 上段 = 産業廃棄物 下段 = 特別管理 産業廃棄物								
			安定型廃棄物				管理型廃棄物							特別管理廃棄物											
			がれき類	廃プラスチック	ガラス陶磁器くず	金属くず	ゴムくず	汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	廃油	廃酸	廃アルカリ	燃え殻	鉱さい		動植物性残渣	ばい塵類	13号廃棄物	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	感染性
石川県	特管	1709002386	●	●	●	●		●																	許可年月日2022年3月30日 有効年月日2027年3月29日
		1756002386																			●				
富山県	特管	1603002386	●	●	●	●		●																	許可年月日2022年3月27日 有効年月日2027年3月26日
		1653002386																			●				
福井県	特管	1801002386	●	●	●	●		●																	許可年月日2025年3月18日 有効年月日2032年3月17日
		1851002386																			●				
岐阜県	特管	2100002386		●		●																			許可年月日2022年8月16日 有効年月日2027年8月15日
		2150002386																			●				
滋賀県		2501002386		●																					許可年月日2024年11月20日 有効年月日2029年11月17日

\* 積替え、保管なし

## (2) 収集運搬車両

車種	台数
11t車	4
13t車	1
8t車	2
6t車	1
4t車	2
3t車	2
合計	12

## (3) 処理の実績(t)

種別	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
木くず	1	3	1	5
がれき類	1,294	1,130	1,252	1,325
廃プラスチック	132	118	98	71
金属くず	31	0	1	0
ガラスくず	0	0	0	113
廃酸(バッテリー液)	2	8.9	10.6	17.4
合計	1,460	1,259	1,362	1,526

## 12. 代表者による全体評価と見直し



2025年7月20日  
北陸電通輸送株式会社  
代表取締役社長 滝 裕孝

### <評価>

2024年9月に発生した能登半島豪雨災害の影響があり、特需的に業務量（走行距離、運搬量）が増えたため、CO<sub>2</sub>排出量、Nox排出量が増加となった。

- CO<sub>2</sub>削減に資するデータは総車両を対象として管理するが、走行に係る分析にあたっては産業廃棄物処理事業用貨物自動車の走行距離、給油量等に重点を置いて算定及び評価していく。
- 二酸化炭素総排出量
  - ・全体のCO<sub>2</sub>排出量の対前年比は17,728kg-CO<sub>2</sub>（5.2%）の増加となった。
- 窒素酸化物排出量
  - ・対前年比は32,278g-Nox（8.9%）の増加となり、走行距離の増加が一因と思われる。
- 水使用量
  - ・使用料は一定化しており、更なる節水意識の定着化を図る。
- Eco商品購入（一般事務用品を対象とする）
  - ・Eco対象品目がある事務用品の購入率は74%であったが、今後も積極的にEco商品を購入し、購入率2%向上を目指す。

### <今後の取組み>

- CO<sub>2</sub>排出量は業務量（走行距離、運搬量）に左右されることから、燃費（CO<sub>2</sub>/km）向上を重点目標として取り組んでいく。
- 電力使用による二酸化炭素排出量
  - ・引き続き、エアコンの適正温度の設定、及び不用照明の消灯に努めていく。
- 無事故継続に向けた取組み
  - ・輸送業務の基本である「安全」を従業員に再認識させ、加害事故、作業事故「0」を継続していく。
- SDGsへの貢献
  - ・物流を通じたSDGsの実現に貢献するため、自社で可能な取組みを進めていく。